

いつか行くぞ!を思い描く旅コラム②

和田義弥

フリーライター



縦に横に少年と行く。 ノースアメリカを

20年ほど前にオートバイで世界一周、五大
陸を走り切った和田義弥さんがもし、いま
あらためて旅をするならどこか。それが
北米だ。タンDEMシートに息子とテント
を山積みして、キャンピングで大陸を縦横
断するのである。

旅で見つけた生き方は 自由なアウトドアライフ

1998年、25歳の私はオーストラリア大陸をオートバイで旅していた。2年前に学生生活を終えていたが、やりたいことがわからずに就職をする気にもならず、1年間アルバイトでお金をためて日本を出たのだ。

なぜ、オーストラリアだったかと言えば、今となってははっきりと覚えていないが、当時のオートバイ雑誌の記事に影響されたというのが理由としてある。1990年代、海外ツーリングといえばオーストラリアが定番だったのだ。現地のモーターサイクルショップでヤマハXT250を手に入れ、あちらこちらに寄り道しながら10カ月かけて大陸を一周した。

オーストラリアを旅したことで、私はもっと自分の知らない場所に行ってみたいと思うようになった。万卷の書を読みより、旅はより大切なことを、より多く教えてくれる。

そして、次の目的地としたのが南北両アメリカ大陸だった。このときはもう、いずれヨーロッパやアフリカも走るつもりで、世界一周をしてやろうと考えていたように思う。

旅の資金をかせぐために2年間働いて、2001年の夏に成田空港からカナダ・バンクーバーに旅立った。オートバイはホンダXR250バハ。東京の大井ふ頭から船でバンクーバー港に輸送した。目指す場所は、南アメリカ大陸南端部のフエゴ島。オートバイで走って行ける世界の最南の地だ。

カナダやアメリカは、旅とアウトドアが文化としてしっかり地位を確立している国だ。どこにもあるキャンプグラウンドとハイウェイを走るモーター・ホームが旅人の多さを物語る。世界で



初めてナショナルパークを設立した国で、自然環境の保全にも熱心である。

ジャスパー、バンフ、グレイシャー、イエローストーン、グランドキャニオン、ロッキーマウンテン、ヨセミテ……と、大陸西部のナショナルパークを転々とキャンピングしながら、私はメキシコを目指した。それから兩米を一周し、日本を発って1年が過ぎた頃、ペルーでオートバイを盗まれてこの旅は終わった。

2年後、今度はスズキ・ジューベル250XCでアジア、ヨーロッパ、アフリカ

を走破し、これで形の上では5大陸、世界一周をしたわけだが、旅の終盤は、ただ目的地を目指すだけの詰まらないものになっていた。一方で、これから自分は何をしたいのか、どう生きたいのか、ということがぼんやりと見えてきていた。

ひと言でいえば自由な生きたかった。好きな場所で、好きなことをして、暮らしに必要なものなるべく手作り

